

6月7日（木）高校総体報告会

「努力する人」

〇加高校の選手が、チームメイトが、応援する生徒が、保護者が、先生方が、コーチが県内各地で躍動した5日間でした。〇加高校の生徒たちが頑張る姿を見て、次のようなことばが浮かびました。

がんばっている人は
どんなに泥や汗や涙にまみれても
どうして あんなに格好いいのだろう

がんばっている人は
どんなにきつくて苦しそうにしている
どうして あんなに輝いているのだろう

がんばっている人には
試合の勝敗を越えて
どうして あんなに多くの応援者がいるのだろう

がんばっている人は
それだけで十分美しい輝きを放ち
周囲を魅了してやまないからだろう

「感激」や「感動」というのは
がんばった人への
神様からの贈り物なのだろう

開会式での息の合った行進は見事でした。風が強い中、旗手の酒井いづみさんは大役を果たしてくれました。オレンジの団旗に続いて、胸を張って堂々と行進する皆さんを誇らしく思いました。

また、試合では勝敗を超えて最後まで一丸となってプレーする選手の姿がありました。ギャラリーやグラウンドで声をからしながら応援するチームのメンバー、応援に駆け付けた生徒、保護者、先生方の姿がありました。行く先々で保護者さんが「〇〇部は勝ったそうですね。」とか「〇〇部は残念だったですね。」とか「〇〇部はどうでしたか」とお尋ねになられるんです。自分の子どもが所属していない部のことも気掛け

て応援してくださっているんだと思いました。また、ある部の試合後に応援席に来て「応援ありがとうございました」と一礼した時、私の横にいらっしゃったお母さんの目から涙がこぼれたんです。親も生徒も先生方も気持ちを一つに戦った4日間でした。

私は、陸上部の保護者さんから戴いたこのオレンジのタオルを持って県内各会場を回りました。オレンジという色は明るさ、前向き、ポジティブ、チャレンジ精神を象徴する色です。私達にはオレンジの魂「橙魂」が宿っています。「これぞ口加だ！」という場面に沢山立ち会えて、改めて皆さんは私たちの自慢の生徒であり、口加高校は私たちの誇りであると実感した大会でした。

さて、今日から、ここで全員が気持ちをリセットして、それぞれが次に向けたスタートラインに立ってください。まず大切なことは「目標」を掲げることです。目標を掲げなければどの方向に一步を踏み出せばよいのか分かりません。また、初戦突破が目標のチームとベスト8を目標にするチームでは意識も、練習の質や量も違ってきます。高い目標を掲げてください。

そして、部活動においても、進路においても目標を定めたら、次に大切なことは「努力」することです。努力とは、小さな積み木をコツコツコツコツ積み上げる作業です。何事も大舞台に立つ時の「自信」は、日頃の弛まぬ「努力」からしか生まれてきません。大きな喜びも感動も努力の先にあるのです。「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。」これは、作家の井上靖さんのことばです。また、イチローは大記録を打ち立てた時のインタビューで「小さなことを重ねることがとんでもないところに行く ただひとつの道」と言いました。可能性や才能を開花させる人は、例外なく努力する能力を持っています。努力する能力は、生まれ持ってきた才能ではありません。誰でも身に付けることができます。では、どうすればよいか、その方法は一つです。努力をする能力は、努力をすることでのみ身に付けることができます。しかし、私たちの脳は「もっと頑張れ」と指令する脳と、「さぼって楽をしよう」と指令する脳がせめぎ合っているそうです。私自身も楽をしたいとか、怠けそうになることは多々あります。そのたびに自分を奮い立たせて努力を続けるようにしています。

くじけそうなとき、怠けそうなとき、努力の先にある喜びや感動を思い描いてください。くじけそうなとき、怠けそうなとき、仲間の姿を見てください。そこには共に頑張る仲間の姿があるはずです。そして、口加高校には世界一の先生方がいます。私たちがみんなを誇るように、みんなは先生方を誇ってください。みんながくじけそうな時、怠けそうな時には、励まし、時に厳しく叱ってくださいます。勉強も部活の練習もきついことを課されることがあると思います。それは、小さいことを積み重ねることがとんでもないところに行く唯一の道だからです。

今日から皆で新しい一步を踏み出しましょう。「勝負は日常にあり」です。